

公益社団法人武蔵野法人会 会長賞

税がつなぐ「私」と三鷹の未来

東京都立三鷹中等教育学校

三年 藤田 幸葉

身近にある「無料のものには裏側に何かがある」。そんな気づきから私は税に興味を持ちました。

きっかけは、三鷹市の井の頭恩賜公園です。私は家が近いためよく通るのですが、通る度に広々とした緑地や清潔なトイレ、整備された遊具に感心します。この公園も税金によって維持されていると知ったのは、学校の社会の授業でした。何気なく使っていた施設も、税を納める多くの人の支えによって成り立っているのだと気づいたのです。

三鷹市の令和7年度の一般会計は約894億円で、そのうち市税収入は約419億円です。この税金は、教育や子育て、防災や環境整備など、様々な分野に使われています。特に教育には約1割以上が充てられています。私たちが通う都立学校の教室や体育館、給食や教科書、先生たちの人件費にまで税が活かされていると考えると、自分の生活と税が密接につながっていることを実感します。

家でも、母が給料明細を見て「税金が高いなあ」と話すことがあります。収入に応じた所得税や住民税、日々の買い物でも消費税を支払っています。以前は「税金はとられるもの」というイメージでしたが、今では「支え合いのための仕組み」なのだと考えるようになりました。

また、三鷹市では市外との連携にも税が使われています。これは、将来の地球環境のために使われる、未来志向の税の使い方だと思います。

一方で、ふるさと納税の影響により、三鷹市の税収が年間で約16億円以上も減っていると知りました。これはごみ処理などに必要な費用に相当し、税収の減少が市のサービスに影響を与える可能性があります。税金は限られた資源であり、どのように使い、どのように集めるかがとても大切なのだと思いました。

税金は、払うだけではなく、私たちの暮らしに返ってくるものです。学校や公園、図書館など、日常のあらゆる場所にその恩恵があります。そしていずれは自分も働き、税を納める立場になります。そのとき、今の学びがきっと役に立つはずです。

税金は、私たちの社会を支える「見えない力」です。自分の未来と地域の未来をつなぐ大切な橋のような存在です。私はこれからも税について関心を持ち、社会の一員としてできることを考えていきたいです。